

SCHOOL LIFE 12月

CSとして→紙漉学習への心構え

11月10日(金)から本格的にスタートした紙漉学習、「カジの木切り」「蒸し」「皮剥ぎ」「蒸解」「黒皮取り」と順調に行程は進んでいます。「皮剥ぎ」や「黒皮取り」では、カジの木の皮についている黒皮を取らなくてはならないので、とても根気のいる作業になります。この黒皮が多く残れば、和紙にもポツポツと黒い点が入ってしまいます。

さて、**昨年度までご指導して下さった出口さんは、4月に亡くされました。**私たちはどんな目的で、どんな気持ちで紙漉学習していけばいいのでしょうか。優しい出口さんのことなので、どこかでニコニコと私たちのことを見ていてくださると思いますが、作業をしながら、ふと考えました。

そこで、3年生の道德の時間に豪華列車を作るためにあらゆる職人さんたちが自分たちの技を發揮しながら奮闘する「プロフェッショナル」という番組の動画を見ました。職人さんたちがどんな目つきで、どんな姿勢で取り組んでいるか。それが十分伝わる番組でした。「出口さんの教えを継承し、いよいよ自分たちの卒業証書になる和紙を作る。そこにどれだけの思いを持てるか。」ということが大切なのではないかと感じました。

また、**大川内地区コミュ協人づくり部会長 恒松さん**をはじめ、**地域の方々に多大な支援をいただきながら、本年度も紙漉学習が実現しています。色々な方々の思いが込められた、大川内の伝統工芸なのです。**生徒と共に、このことをしっかり認識して取り組んでいきます。

生徒の感想

プロフェッショナルの映像を見ました。たくさんの職人さんたちで仕上げる豪華列車。職人さんたちがどんな変更にも応え、合わないパーツもいろいろな方法で合わせる。それに向かう姿勢が全然違いました。昨日の黒皮取りですがいしゃべっていた自分がばかばかしいです。黙々とやっていた人たちに申し訳ないです。ただこの紙漉の工程を引き継ぐのではなく、このような姿勢も引き継いでいきたいと思います。

11月16日
蒸解



11月17日
川浸



11月21日
黒皮取り



11月27日
漂白



11月28日
水洗い



11月30日
叩き



12月4日
ナシカズラ採集
恒松,山鹿,橋口,竹内,牧さん



12月5日 ナシカズラで糊作り



12月6日 紙漉本番 12月8日 乾燥

様々な場面で、出口義信さんの存在の大きさを感じながら試行錯誤し、なんとかここまでたどりつくことができました。そして、和紙をつくるのに重要なナシカズラの「のり」の配合やできた和紙の重ね方など、大変難しい行程があったため、特別に鹿児島県伝統的工芸品に指定されている「鶴田手漉和紙」の後継者である野元正志さんに来校していただきました。本来は午前中1時間の予定でしたが、野本さんのご好意で6校時まで残っていただき、全学年直接指導を受けることができました。野元さんから自然のナシカズラを使ったのり作りや、私たちが使っている道具の希少性なども教えていただき、改めて出口さんの残してくださった伝統を受け継ぐ大切さを感じた1日でした。



生徒の感想

和紙を漉きました。初めて難しい方を体験しました。野元さんが教えてくださったので、思っていたより上手にできました。今まで先輩たちが受け継いできた伝統、地域の人との協力があってこそ和紙づくりができると思うので、これからもその伝統を誇りに思い、伝統継承してほしいです。

野元さんはとても優しく教えてくださったので、流し漉きでとても良い和紙ができました。焼き芋がすごくおいしかったです。給食中に野元さんが「全行程の紙漉体験ができるのは鹿児島でも大川内くらいだよ」とおっしゃっていたのに驚きました。貴重な伝統をつないでいきたいです。

【平成29年12月12日 南日本新聞】

和紙作り 伝統継承



野元政志さん（左）から助言を受け紙すきに挑戦する生徒
|| 出水市の大川内中学校

出水・大川内中生

出水市の大川内中学校で6日、地域に伝わる伝統工芸の和紙作り体験があった。学校行事を長く支えてきた地元の指導者が今春他界し途絶える可能性もあったが、地域住民や関係者の協力で実現。生徒たちは「これからも伝統を継承したい」と張り切っている。

大川内地区は明治時代から手すき和紙の産地だった。障子紙の需要が減り、工場はなくなったが、同校は郷土学習の一環で1990年から和紙作りを取り入れた。2003年からは全工程を体験するようになり、地元で最後の職人だった出口義信さんが指導していた。出口さんは今年4月、80歳で亡くなった。手すきのやり方だけでなく、材料の調達、木の皮はぎや洗浄、のり作りなど全ての作業に

住民・職人ら協力し指南

関わっていたため、その影響は大きい。特にのりの原料となるナシカズラの群生地は、出口さんしか知らなかった。

こうした状況に、住民らでつくる大川内地区コミュニティ協議会が「地域の伝統工芸を守ろう」と立ち上がる。植物の専門家の協力をもらいナシカズラをはじめ材料の調達に奔走した。

学校もさつま町で「鶴田和紙」を作る野元政志さん（64）に協力を依頼。野元さんは「受け継がれてきた伝統を残せるのなら」と快諾した。本番では生徒や地域住民にも材料の配合や道具の使い方まで細かく指導した。

3年の内原舞一郎さんは「昨年とおとしの教えが体に染みついていた。いい和紙ができましたと出口さんに報告したい」。3年生は一番上手にできた和紙を卒業証書にする。

（吉永亮治）

小中一貫校に向けて

来年度からの小中一貫校への試行として、大川内小学校の6年生が12月～2月の毎週金曜日に中学校で1日授業を行うことになりました。12月1日に生徒会主催で対面式を行い、昼休みには交流レクレーションをしました。大川内の良さを生かした教育で、ふるさと出水を大切にできる人材を育成していきます。

12月1日
生徒会主催対面式



12月1日
全校給食



12月1日
生徒会主催レクレーション



12月8日
小6・中1 合同体育



12月15日
中学校理科教諭 T1 授業



12月15日
中学校部活動への参加



CSとして→おれんじオルレへの協力・参加

12月2日(土)、大川内厳島神社から麓武家屋敷までの13.8kmの道程を歩く「オルレフェア2017 おれんじオルレ～」が開催されました。今年は大川内小学校と中学校を対象に絵画コンテストも行われ、大韓民国総領事の金玉彩(キムオクチェ)氏直々に表彰していただきました。また、韓国50人・県内外150人の方々をコース途中で歓迎すると共に、郷土のすばらしさを体感するためにオルレに生徒・職員で参加しました。



出水市マスコット「つるのしん」



絵画コンテスト表彰式



市長、総領事さんと記念撮影



本校作成歓迎横断幕



歓迎の手漉和紙配布



参加者と生徒との交流



英語科研究授業 トップダウンリーディング

13日(水)に、英語の研究授業を実施しました。今回は、出水市英語部会の研究も兼ねて他校から10名の先生方も参加され、藤原先生が授業しました。この授業をとおして、これからの英語教育は今まで私たちが受けてきたような英語の授業ではなく、「使える英語力」を育もうとしていることがよくわかりました。英語の文章の意味がわかるだけでなく、自分の考えを英語で伝えられるような力が求められています。更なるグローバル化に向けて、英語によるコミュニケーション力は必要不可欠です。英語の学習に意欲的に取り組んでいきます。



CSとして → 収穫祭

12月11日(月)に、収穫祭を開催しました。今年は3年生が米づくりや紙漉などでお世話になった地域の方々の招待と米作りのまとめの発表を行い、準備や企画を2年生の生徒会執行部が中心となって行いました。それぞれが役割を分担し、各班の班長が事前にしっかりと段取りをしてくれていたため、とてもスムーズに準備することができました。米づくりで収穫されたお米をかまどで炊いたおにぎり、梅ちぎりで収穫した梅を加工した梅干し、地域の方に提供していただいた餅米を使ったお餅、豚汁などを作り、みんなで食べました。餅については、実際に臼(うす)と杵(きね)で餅をつきました。初体験の生徒もいました。5月から始まった米作り。みんなで自然への感謝をしました。



生徒の感想

2年生の執行部を中心に企画し、色々大変でした。でもみんなでやりきった感がありました。早くから地域の方も来てくださり、準備を手伝ってくださいました。中学校と地域のつながりのすばらしさを改めて実感しました。このようなつながりを大切にしていきたいです。

今年の準備は2年生が積極的に準備してくれてとてもやりやすかったです。新米や餅などとてもおいしかったです。恒松さんが作ってくださった漬け物もとてもおいしかったです。いろんな方が喜んでくださったので、よかったです。

西野先生ありがとうございました。

学校図書事務員の西野先生が退職されることになり、お別れ会を行いました。図書の貸し出しだけでなく、生徒の悩みや相談にもよく耳を傾けてくださり、憩いの場をつくってくださいました。本当にありがとうございました。



